

# 京都市私立幼稚園「個別の保育支援計画」の策定

発達に課題のある児童の継ぎ目のない指導の手だての連携をめざして

Development of Kyoto-city private kindergarten Association "individual of childcare support plan"  
Toward the cooperation of Tedate of children of seamless leadership that challenges to development

○朝野浩

西村 二郎

Hiroshi Asano

Jiro Nishimura

(立命館大学)

(鴨東幼稚園)

Ritsumeikan University Oto Kindergarten

Key words: 個別の教育支援計画, 個別の指導計画, 就学支援シート

**はじめに:** 2007 年度に特別支援教育制度が始まり学校教育法の中で幼稚園においても障害のある幼児の生活及び学習上の困難を克服するための教育を実施しなければならないと規定された。同時に各園でなされる指導や支援を就学先に引き継いでいく必要がある。一方、京都市の取組として就学支援シートの全園実施が行われている。**目的:** そこで家庭や医療、福祉等の関係機関と連携した支援のための計画を個々の幼児の発達や障害の状態などに応じ「個別の指導計画・個別の教育支援計画」の必要性が言われる中、(公社)京都市私立幼稚園協会においても実施する方向で策定の検討を行った。

**方法:** 京都市私立幼稚園協会特別支援教育研修会内の研究グループとして総合支援学校個別の包括支援プラン及び京都市就学支援シートを参照し独自の計画試案を作成。一年次(平成 23 年)「個別の指導計画・個別の支援計画」について研究及び各園毎の特別支援教育(保育)の取組について共通理解と考え方の確認。  
二年次(平成 24 年)引継ぎに必要な項目集約のための実践内容の整理。手だての記録と「できる」の表現方法の記載例の検討。  
三年次(平成 25 年)日常指導、引継ぎに必要な項目として、①生活:a 食事。b 排泄。c 着脱。d 生活習慣・身辺処理。e 健康・安全。②ことば:a ことばの獲得。b ことばの使い方。③人との関わり:a 社会性・情緒。b あそび方・興味関心、④運動面:a 運動。b 手指の操作の大項目 4 と下位項目 10 とした。各園での試行による枠組の修正改善。保育者にとって使い易く、継ぎ目のない指導の継続を目指した手だて付きの記録のあり方のサンプルなどを作成。

四年次(平成 26 年)名称を「個別の保育支援計画」とした。使い易いように枠組の修正改善。実態把握の助けになるチェック項目、補助シート等の追加。記入例、記入上の注意点や手だてのためのヒントなどを作成・改善。**結果:** 作成した個別の保育支援計画のサンプル表を下記に挙げる。特に、策定に参加した保育者が研究実践する中で、随伴的に本計画の主旨の伝道者及び特別支援教育の指導者として成長したことに価値と意味があった。

**考察:** できる姿が手だてと共に記録されていくことが個別の保育支援計画として最重要である。また、作成する中で保育者の困りから子どもの困りへ意識の転換が解決するターニングポイントとなる。手だてとは、この困りを取り除く手段であり、子どもにとって有効な手だては子ども自身のものである。保護者との連携については、親が障害受容するためには、保育者が先ず親の心理状態を受容し、子どもの出来る姿を表現することから始め、子どものために保護者と保育者が考え合う関係づくりが大切。これらの実行のためには園内委員会(複数の目で子どもを見守り、考え合うこと)の設置が大切であることなどが確認される。今後、障害の傾向や特徴、年齢別に構成された個別の保育支援計画を作成するためのガイドブックの研究・作成する必要があると考える。  
参考文献: 文部科学省幼稚園教育要領解説(平成 20 年)